

介養協第70号
令和5年10月25日

介護福祉士養成施設 代表者 殿
教務主任 殿

公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会
会長 澤田 豊

厚生労働省 老人保健健康増進等事業
「介護福祉士養成施設学生の途中退学の防止等に関する調査研究事業」
アンケート調査（教務主任向け）へのご協力をお願い

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素から協会の運営につきましては、ご支援、ご協力をいただき、感謝申し上げます。

各会員校におかれましては、常日頃より、一人でも多くの学生を優秀な介護福祉士として養成し現場へ送り出していくという強い思いで運営をされていることと存じます。

一方で、途中退学者等の割合をみると、17.8%（うち日本人学生約16%、うち留学生約21%）と決して低いとは言えない数値となっております。その要因は、受け入れ側だけでなく、学生側にも様々あると考えられます。

当協会では、ますます深刻化する介護人材不足の時代において、こうした現状に目を向けることが重要であると考え、今年度、厚生労働省の補助金を活用した当該調査研究事業を実施する運びとなりました。

今回のアンケート調査では、途中退学に至った理由等の実態を明らかにすることを目的にしております。こちらの結果をもとに、今後の学校運営に役立てて頂ける報告書を作成し、各会員校の皆様にご活用頂くことを目標にしております。

ご多用のところ、大変恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力のほど、何卒お願い申し上げます。

【問い合わせ先】

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会
事務局 山田、田中

TEL：03-3830-0471 fax：03-3830-0472

別紙

【学生の途中退学に関するアンケート調査】

項目	内容
アンケート調査名	学生の途中退学に関するアンケート調査
アンケート調査対象者	・全国の介護福祉士養成施設 ※教務主任向け
調査締め切り	<u>令和5年11月13日（月）</u>
調査形態	WEB調査（調査項目は別添「調査票サンプル」のとおり） ※以下のURLからご回答お願いいたします。 https://q.esurvey.jp/a/do.php?id=yk ※以下QRコードを読み取っていただいても、ご回答いただけます。 

厚生労働省 老人保健健康増進等事業
「介護福祉士養成施設学生の途中退学の防止等に関する調査研究事業」

学生の途中退学に関するアンケート調査

【本調査の目的】

近年、養成校入学者数は減少し、当協会調べによると、令和4年度の定員充足率は54.1%となっている中、途中退学等の割合は17.8%（うち日本人学生約16%、留学生約21%）と低い数値となっています。

多くの学生が介護福祉士資格の取得を目指し、養成校に入学したにも関わらず、途中退学等になってしまうのは、介護人材の不足が叫ばれる中において、大変な損失であると当協会として考えており、厚生労働省の補助金を活用して「介護福祉士養成施設学生の途中退学の防止等に関する調査研究事業」を実施することといたしました。

途中退学の要因としては、学校側にも、学生側（日本人と留学生等）にも様々な要因が想定されますが、学生の退学の理由について、これまで全国的に実態を明らかにした調査等は存在しません。

本事業では、途中退学等の防止・抑制に向けた、学生への支援体制および教育のあり方の検討することを目的として、まずは途中退学等に至るまでの理由等の実態を明らかにするためのアンケート調査を行うこととしました。

今回の調査結果は、厚生労働省に報告し、上記観点も踏まえ、養成校における退学防止策等の検討にむけた基礎資料として活用されるものです。本調査の趣旨をご理解いただき、ぜひご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

【本調査の対象】

全国の介護福祉士養成施設

※各校の教務主任の方にご回答をお願いします

【回答期限】

11月13日（月）までに WEBにてご回答ください。

【調査票の取扱いに関しまして】

ご回答いただきました内容につきましては、次のように取扱います。

- ・ 調査で得られた内容は、安全措置を講じてデータの漏洩がないように保管し、施設や回答者が特定できないよう統計処理をいたします。また、研究終了後は、個人情報に該当するデータを破棄いたします。
- ・ 調査への拒否があっても、そのことで不利益が生じることは一切ございません。

■本調査に関する問合せ先

〒113-0033 東京都文京区本郷3-3-10 藤和シティコープ御茶ノ水2階

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 事務局

担当：山田・田中

TEL:03-3830-0471(平日 10:00~17:00)FAX:03-3830-0472

I. 学校基礎情報

問1. 貴校の養成校の種別を教えてください。（1つ選択）

1. 専門学校 ⇒問1-1へ
2. 短期大学 ⇒問1-1へ
3. 大学

[問1で1.2.を選択した方]

問1-1. 貴校の介護福祉士養成課程年数を教えてください。（1つ選択）

1. 1年制
2. 2年制
3. 3年制

問2. 貴校の4桁の介養協の会員番号を教えてください。（数値）

介養協の 会員番号	□□□□
--------------	------

問3. 貴校に現在、留学生が所属しているかどうか教えてください。（1つ選択）

1. 留学生が所属している ⇒問3-1へ
2. 留学生は所属していない

[問3で1.を選択した方]

問3-1. 現在所属している留学生について、授業で使用する日本語の理解状況を教えてください。（1つ選択）

1. ほとんどの留学生が問題なく理解できる
2. 理解に難のある留学生が少なくない
3. ほとんどの留学生がよく理解できていない

問4. 貴校に現在所属している学生について、何らかの学費減免を受けている学生の割合を教えてください。（1つ選択）

1. 1割未満
2. 1割以上～3割未満
3. 3割以上～5割未満
4. 5割以上～7割未満
5. 7割以上～9割未満
6. 9割以上
7. わからない

問5. 過去5年程度の間、入学後1年経過後の在籍者の割合は、入学人数と比較してどの程度であったかを教えてください。（1つ選択）

※標準的な割合をお答えください。

1. ～3割未満（多くが辞めている）
2. 3割以上～5割未満
3. 5割以上～7割未満
4. 7割以上～9割未満
5. 9割以上（ほとんど辞めていない）

問6. 貴校の教員数を教えてください。（数値）

※2023年10月1日時点の状況を記入してください。

教員数	専任教員数（ ）名
	—うち介護教員講習会受講済み者（ ）名
	その他教員数（ ）名
	—うち介護教員講習会受講済み者（ ）名

問7. 2022年度に行った教員向けの研修や講習の回数を教えてください。（数値）

※関連する研修や講習の開催回数を足した数を教えてください。

※1種類の講習で複数回開催している場合、開催回数を複数カウントしてください。

研修や講習の回数	<input type="text" value="□□□□回"/>
----------	------------------------------------

問8. 2022年度に行ったFD（Faculty Development）の回数を教えてください。（数値）

FDの回数	<input type="text" value="□□□□回"/>
-------	------------------------------------

問9. 貴校の日本人学生の入学試験（選抜）で選抜要件となっている事柄を教えてください。（あてはまるものすべて選択）

1. 日本語にかかる知識・技能（語彙力・論理的読解力等）
2. 外国語にかかる知識・技能（英語、他言語等）
3. 数学にかかる知識・技能（計算や図表読み取り等）
4. 福祉分野にかかる知識・技能
5. 意欲や目的意識（介護を学びたいという意欲等）
6. 思考力／判断力／表現力等
7. 人間性
8. 就学資金や生活費等の支払能力
9. その他

[問3で1.を選択した方]

問9-1. 貴校の留学生の入学試験（選抜）で選抜要件となっている事柄を教えてください。（あてはまるものすべて選択）

1. 日本語にかかる知識・技能（語彙力・論理的読解力等）
2. 外国語にかかる知識・技能（英語、他言語等）
3. 数学にかかる知識・技能（計算や図表読み取り等）
4. 福祉分野にかかる知識・技能
5. 意欲や目的意識（介護を学びたいという意欲等）
6. 思考力／判断力／表現力等
7. 人間性
8. 就学資金や生活費等の支払能力
9. その他

[問3で1.を選択した方]

問9-2. 留学生の日本語能力の入学要件を教えてください。（1つ選択）

※明確に要件にしていなくても、面接等で会話して判断している場合、その判断基準の程度を選択してください。

1. N1程度以上
2. N2程度以上
3. N3程度以上
4. N4程度以上
5. N5程度以上

II. 学生への対応

問10. 貴校で学生の学ぶ意欲を高めるため、行っていることを教えてください。（あてはまるものすべて選択）

※個別教員における対応でなく、学校全体で取り組んでいることを選択してください。

1. 授業や課題等の理解度を踏まえた授業の進め方の配慮
2. 授業や課題等の理解度を踏まえた補講・個別指導の実施
3. 生活状況や体調等を踏まえた指導内容の調整
4. 現場職員、卒業生等との交流の機会の提供
5. 実習やアルバイト（介護施設）と授業の関係の説明
6. 社会のしくみ・制度と授業で学ぶことの関係についての説明
7. 各科目の関連性がわかるよう、シラバスやカリキュラム上で工夫
8. 各科目の関連性がわかるよう、指導案や教材を工夫
9. 学生の考えについて、他の学生等に向けて説明・発表させる機会の提供
10. 教員と学生がコミュニケーションを多くとれるような体制構築
11. その他（ ）
12. 特別な対応は取っていない

問11. 貴校での国家試験対策の実施状況、実施体制について教えてください。（あてはまるものすべて選択）

1. 施設内に国試担当教員を配置している ⇒問11-1へ
2. 国試に対する特別授業を設置している ⇒問11-1へ
3. 国試に対する個別指導体制を整えている ⇒問11-1へ
4. 外部の指導（外部講師・予備校等）を取り入れている
5. その他（ ）
6. 特別な対応は取っていない

[問11で1.2.3.を選択した方]

問11-1. ご回答いただいた国試対策の体制について、専任教員によるものかどうか教えてください。（それぞれ1つ選択）

対応内容	対応状況
施設内に国試担当教員を配置している	1. 専任教員のみに対応 2. 専任教員・非常勤教員ともに対応 3. 非常勤教員のみに対応
国試に対する特別授業を設置している	
国試に対する個別指導体制を整えている	

問12. 貴校で介護実習に関し、取り組んでいることを教えてください。(それぞれ1つ選択)

対応内容		対応状況
実習前	実習施設に対し、実習意義/実習目的の伝達をしている	1. 全ての学生/実習先で対応 2. 一部の学生/実習先で対応 3. 対応できていない
	学生に対し自己分析や実習目標等の個別指導をしている	
	実習生や実習施設の特性を鑑み、実習先のマッチングを行っている	
実習中	巡回指導時、実習内容/実習目標の到達状況を鑑み、実習施設の実習指導担当者と、実習の効果を高めるための方策をともに検討している	
	巡回指導時や帰校日に、実習内容/実習目標の到達状況を鑑み、学生に個別指導をしている	
実習後	実習目標/実習課題の達成状況等を踏まえ、学生の振り返り指導を行っている	
	実習目標/実習課題の達成状況について、実習先に共有している	

問13. 貴校で行っている学生に対する生活へのサポート状況についてあてはまるものがあれば教えてください。(あてはまるものすべて選択)

1. 学費減免にかかる制度構築
2. 自校/自法人による奨学金等、経済上の支援にかかる制度構築
3. 外部の奨学金等、経済上の支援にかかる制度のあつせん
4. 住居等にかかる補助、寮の設置
5. 礼拝所の宗教施設の設置等、信仰がある学生への配慮
6. その他 ()
7. 特別な対応は取っていない

問14. 退学を防止することに効果が期待される事柄のうち、現在取り組んでいる事柄についてあてはまるものを教えてください。(あてはまるものすべて選択)

※個別教員における対応でなく、学校全体で取り組んでいることを選択してください。

<履修・カリキュラム上の制度>

1. 学内での学修コース変更などの進路変更の制度構築
2. 休学の活用等、柔軟な履修ができる制度構築

<相談体制にかかる体制>

3. 学習相談・学習指導など学習上の相談体制の構築
4. 人間関係、心の問題に関するカウンセリング等相談体制の構築
5. 就職相談等、進路・キャリアに関する相談体制の構築

<個別面談体制>

6. 教員・職員による学生との個人面談の実施
7. 教員・職員による保護者(後見人含む)との個人面談の実施
8. 教員・職員による学生の自宅を訪問

<学生の状態把握の体制>

9. 出欠状況や履修態度等、学生の修学状況を教職員全体で共有し、対応策の検討ができる仕組みの構築
10. 学生のメンタル、個別事情等を教職員全体で共有し、対応策の検討ができる仕組みの構築

<学生の居場所づくりにかかる対応>

11. 学生の出欠状況や履修態度、修学状況やメンタル等にかかる事柄を、保護者(後見人)に共有する仕組みの構築
12. ゼミ・課外活動・ボランティア等、学内・学外行事の活動等を通した学生の居場所づくりに関する仕組みの構築

<その他>

13. その他 ()
14. 特別な対応は取っていない

Ⅲ. 退学学生の理由

問15. 過去5年程度の間で退学した学生に関し、その退学理由のうち、**学校外**の事柄にその要因があるものについて、あてはまるものをすべて教えてください。（それぞれ1つ選択）

※伝聞、予想問わず、学校として想定できるものをご回答ください。

対応内容	該当状況
生活習慣の乱れによるもの	1. よくあてはまる 2. あてはまる 3. あまりあてはまらない 4. あてはまらない
心身の健康や体調の問題によるもの	
本人の特性によるもの	
家庭等の影響によるもの	
経済的要因によるもの	
その他（ ）	

問16. 過去5年程度の間で退学した学生に関し、その退学理由のうち、**学校内**の事柄にその要因があるものについて、あてはまるものをすべて教えてください。（それぞれ1つ選択）

※伝聞、予想問わず、学校として想定できるものをご回答ください。

退学理由		該当状況
意欲の低下によるもの	福祉業界や介護福祉士という職業への興味関心の低下	1. よくあてはまる 2. あてはまる 3. あまりあてはまらない 4. あてはまらない
	学校が提供している教育への興味関心の低下	
	福祉分野に対する興味・関心がなくなったため	
	介護福祉士という職業に対し興味・関心がなくなったため	
成績不良によるもの	必要な能力の修得に対する興味・関心がなくなったため	
	学校が提供している教育そのものに興味・関心がなくなったため	
学内の人間関係によるもの	知識や技能の習得が不足し、成績が不良であったため	
	学校の教員や職員との人間関係がうまくいかなかったため	
	他の学生との人間関係がうまくいかなかったため	
学外実習の不適応によるもの	クラスや実習などの集団（グループ）になじむことができなかったため	
	実習で必要となる知識・技術・姿勢等の習得がうまくできなかったため	
	実習先において人間関係（対職員）がうまくいかなかったため	
学校への不満によるもの	実習先において人間関係（対利用者）がうまくいかなかったため	
	学校への不満（方針・設備・授業内容・評価等）があったため	
進路変更によるもの	医療・福祉分野以外の新たな分野へ進路変更したため	
	介護以外の医療・福祉分野（看護・社会福祉等）に進路変更したため	
	介護の別の専門学校や大学に進路変更したため	

問17. 過去5年程度の間で、**学校内**の事柄にその要因がある退学理由により退学しそうな学生で、学校の対応により退学を思いとどまった学生のケースのうち、学校の対応として退学防止に最も効果的であったと思われるものを1つ選び、以下の内容を詳しく教えてください。

- ① 退学しそうなことにどのように気付いたか（自由記述）
- ② どのような理由で退学が想定されたか（自由記述）
- ③ 学校としてどのように対応したか（自由記述）
- ④ 学校の対応の結果、どのような結果となったか（自由記述）
- ⑤ 退学を防止できた要因（自由記述）

① 退学しそうなことにどのように気付いたか (自由記述)	(例) 1年生で、GW明けから授業の参加状況が悪くなり、表情もすぐれない日々が続く生徒があった。授業中も気がそぞろであり、複数教員にヒアリングしたところ、いずれの授業でも同様の状況であることがわかった。等
② どのような理由で退学が想定されたか (自由記述)	(例) 本人に面談の上、意見を聴取したところ、生徒同士のコミュニケーションがうまく取れず、グループの輪に入れず孤立気味であることがわかった。等
② 学校としてどのように対応したか (自由記述)	(例) 補講にて、グループワークを多用した授業を行っていたため、その授業に参加してもらい、他学生と常に話ができる状態を作るとともに、担任の授業でもグループワークや生徒同士の対話を組み入れるなど授業の工夫をした。等
③ 学校の対応の結果、どのような結果となったか（自由記述）	(例) 他生徒と日常的に会話できるようになり、日ごろの表情も明るく、笑顔も見られるようになった。等
⑤ 退学を防止できた要因 (自由記述)	(例) もともと引込み思案でどのように初動をすればよいかわかっていなかったものの、コミュニケーションそのものに難があるわけではない点を教員が理解し、コミュニケーションの輪に入れる対応を取ったことが、功を奏したと考えられる。等

問18. 今後、退学防止に関し、退学を思いとどまった学生にヒアリングをさせていただくことを想定しています。もし、思い当たる学生がいらっしゃり、ヒアリングをお受けいただけそうな場合は、本会からご連絡する際に使用しますので、ご担当名・ご連絡先等をご教示ください。（自由記述）

ご担当者名	
電話番号	
メールアドレス	

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。